

TRL 計算ツール記入サンプル

<製品編>

平成 26 年 1 月

環境省 地球環境局

本記入サンプルにおいては、「製品」型の技術開発課題における「TRL 計算ツール」の各シートへの記入例を、仮想の中小ビルのエネルギー使用量制御システムの技術開発提案を例として示す。

なお、TRA の概要や、TRL 計算ツールの詳細な記入方法については、別添資料である「TRL 計算ツール利用マニュアル＜初版＞」（平成 26 年 1 月）を参照すること。また、「地域モデル」型の技術開発課題の記入例は、「TRL 計算ツール記入サンプル＜地域モデル編＞」（平成 26 年 1 月）を参照すること。

* 地域モデル： ある特定の地域において再生可能エネルギーや省エネルギー対策の導入を面的に実現する社会システムやソフト対策

例： スマートシティ、熱融通街区、里山におけるバイオマス地産地消モデル、
変動料金を用いた地域節電システム等

— 基本情報 —

事業者情報と技術情報をご記入ください。

事業者情報

1	事業実施者名	(環境省地球環境局)
2	代表者氏名(ふりがな)	(環境太郎)
3	代表者役職	(課長補佐)
4	代表者電話番号	(03-5521-8339)
5	代表者メールアドレス	(chikyu-ondanka@env.go.jp)

技術情報

1	開発課題名(仮称)	(中小ビルのエネルギー使用量制御システム実証事業)
2	技術分野	(省エネルギー)
3	技術要素名	(制御システム)

→「A.全般」のシートへ

— A. 全般 —

技術開発全体に関わる質問をします。「はい」か「いいえ」いずれかをクリックしてください。
 →答えが曖昧な場合は、「いいえ」をお選びください。
 →「はい」の場合は、根拠に関する説明、或いは提案書に該当する記述のある場合はその箇所をご記入ください。
 必要に応じて別途資料を添付していただいても構いません
 →必要に応じて、全般に関わる全体的な補足事項及び背景等をページ下部のコメント欄にご記入ください。

番号	質問事項	用語	回答	根拠・説明
A-1	基本的な技術及びその原理が明確であるか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(基盤となる原理については「●●●」論文やNEDOの「●●●」レポートにて発表されており、詳細は応募様式の●ページに記述。)
A-2	機器・システムのコンセプトを明確化できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(コンセプトの概念図は応募様式の＜参考図＞として●ページに掲載しており、その詳細は＜技術開発の背景・目的＞欄(●ページ)に記述。)
A-3	機器・システムの個別要素の分析及び概念の検証が完了しているか。	概念の検証	☒ はい ☐ いいえ	(NEDOの「●●●研究事業」により要素技術の開発・検証は完了している。)
A-4	主要構成要素を統合した限定的なプロトタイプまたは限定的な地域モデルによる試験が完了しているか。	限定的なプロトタイプ 限定的な地域モデル 試験	☒ はい ☐ いいえ	(社内の開発チームが試作品として、1／4スケールのプロトタイプを作成、試験済み。その写真は応募様式の＜参考図＞として●ページに掲載。)
A-5	実際に近い導入環境において、量産化・水平展開に向けた機器・システムの実用型プロトタイプまたは実用型地域モデルによる試験が完了しているか。	実際に近い導入環境 量産 水平展開 実用型プロトタイプ 実用型地域モデル	☐ はい ☒ いいえ	(現段階では実用型プロトタイプは作成しておらず、今回応募する環境省事業の技術開発の一環として取り組む予定)
A-6	実際の導入環境において、量産化・水平展開に向けた機器・システムの実用型プロトタイプまたは実用型地域モデルによる試験が完了しているか。	実際の導入環境	☐ はい ☒ いいえ	(同上)

コメント・特記事項

基本原理や機器・システムのコンセプトの明確化、個別要素の分析等は完了しており、社内の開発チームが1／4スケールのプロトタイプを作成済みである。環境省の技術開発事業として採択された後、実用型プロトタイプの作成に取り組む。

→「B.市場」のシートへ

— B. 市場 —

市場ニーズや商品化に関わる質問をします。「はい」か「いいえ」いずれかをクリックしてください。
 →答えが曖昧な場合は、「いいえ」をお選びください。
 →「はい」の場合は、根拠に関する説明、或いは提案書に該当する記述のある場合はその箇所をご記入ください。
 必要に応じて別途資料を添付していただいても構いません。
 →必要に応じて、全般に関わる全体的な補足事項及び背景等をページ下部のコメント欄にご記入ください。

番号	質問事項	用語	回答	根拠・説明
B-1	開発技術の利用者が想定できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(本技術は●●装置の老朽化が進む中小ビルをターゲットとする。)
B-2	販売対象となる顧客層やその特性(購買力等)が検討できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(本技術は寒冷地の中心市街地に老朽化した中小ビルのオーナーをターゲットとして販売する。)
B-3	対象となる顧客層のニーズを把握するための手法または体制が整備されているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(弊社チームの●●を開発チームとマーケティングチームの調整役を配置し(応募様式1ページ参照)、顧客ニーズを開発製品に反映させる。)
B-4	普及に向けた障害となりうる規制等を把握しているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(商品の普及に際しては、JIS規格の取得や消防法等が課題となると考えられる。)
B-5	市場展開に必要な販売・供給体制または運営体制を検討しているか。	—	☐ はい ☒ いいえ	(販売・供給体制についての検討は未着手。)
B-6	開発技術の開発・普及を後押しすると考えられる政策目標や政策支援、公的なロードマップを把握しているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(環境省の中長期ロードマップの中では、2020年までに●万㎡の業務床面積に対してBEMSを導入するとしており、当技術はその目標達成に重要である。)

コメント・特記事項

販売・供給体制については共同実施先と今後協議を行うが、本提案における実施体制には生産を行う●社と販売代理店も担える△社が含まれており、初期普及の段階においてはこの体制をそのまま活用できると考えている。

→「C.開発」のシートへ

— C. 開発 —

要素技術の開発に関わる質問をします。「はい」か「いいえ」いずれかをクリックしてください。
 →答えが曖昧な場合は、「いいえ」をお選びください。
 →「はい」の場合は、根拠に関する説明、或いは提案書に該当する記述のある場合はその箇所をご記入ください。
 必要に応じて別途資料を添付していただいても構いません。
 →必要に応じて、開発に関わる全体的な補足事項及び背景等をページ下部のコメント欄にご記入ください。

番号	質問事項	用語	回答	根拠・説明
C-1	開発技術の科学的な原理や仮定、類似研究等が論文や報告書等で示されているか。また、公開できない場合は、内部資料等で明確になっているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(関連する基礎技術等については、応募様式の＜論文・特許＞欄の論文「●●」にて発表。)
C-2	研究で検証する必要がある仮説を立てられているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(様々なサイズや形態の中小ビルに対して共通のエネルギー制御システムを導入した場合でも、その処理能力や安定性には変化がないと仮定しており、プロトタイプにおける試験を通して検証する。)
C-3	基本的な構成要素及び主要機能に関して、理論又は試験に基づく分析を実施しており、その分析に基づき構成要素や機器・システムの設計案が作成されているか。	試験	☒ はい ☐ いいえ	(構成要素の分析については、応募様式の＜事前準備状況・関連技術開発＞(●ページ)で示す通り社内での実験を実施しており、その結果に基づいて開発製品の基本設計は完了している。)
C-4	開発に利用可能な機器・システムや人材、フィールド試験の実施場所等を特定できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(研究開発やプロトタイプの作成は弊社研究所と共同実施先である●●大学●●研究室で行い、フィールド実証は●●市の協力を得て建設予定の公民館との中型ビルで実施する。)
C-5	主要な構成要素の試作部品または試験的モデルを作成済みであり、それらからデータを取得できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(主要な部品については作成しており、応募様式の＜事前準備状況・関連技術開発＞(●ページ)に示す通り、開発機器の諸性能についてもシミュレーション値を算出できている。)
C-6	構成要素を統合した機器・システムの限定的なプロトタイプまたは限定的な地域モデルを作成済みであり、実用型プロトタイプまたは実用地域モデルの開発に必要な部材・システム等の調達先を検討されているか。	限定的なプロトタイプ 限定的な地域モデル 実用型プロトタイプ 実用地域モデル	☐ はい ☒ いいえ	(1/4スケールのプロトタイプは作成済みであるが、フルスケールのプロトタイプの開発に必要な部品については確保の目処がついていない。)
C-7	機器・システムの実用型プロトタイプまたは実用地域モデルを作成済みであり、実際に近い導入環境で諸性能や使用制約が把握されているか。	実際に近い導入環境	☐ はい ☒ いいえ	(フルスケールのプロトタイプの作成は、環境省の技術開発課題として採択後に着手する。)
C-8	機器・システムの実用型プロトタイプまたは実用地域モデルの実際の導入環境における諸性能や使用制約を把握しており、最終製品または最終地域モデルの作成に必要な準備が完了しているか。	実際の導入環境 最終製品 最終地域モデル	☐ はい ☒ いいえ	(同上。)

コメント・特記事項

フルスケールのプロトタイプの作成は、環境省の技術開発課題として採択後に着手し、このフルスケールのプロトタイプを用いたフィールド実証は、●●市の協力を得て建設予定の公民館と、共同実施先が建設する●●駅前の中型ビルで実施する。

→「D.統合」のシートへ

— D. 統合 —

要素技術の機器・システムへの統合に関わる質問をします。「はい」か「いいえ」いずれかをクリックしてください。
 →答えが曖昧な場合は、「いいえ」をお選びください。
 →「はい」の場合は、根拠に関する説明、或いは提案書に該当する記述のある場合はその箇所をご記入ください。
 必要に応じて別途資料を添付していただいても構いません。
 →必要に応じて、統合に関わる全体的な補足事項及び背景等をページ下部のコメント欄にご記入ください。

番号	質問事項	用語	回答	根拠・説明
D-1	各構成要素が機器・システムに統合された状態で機能することを、既往研究を含む論文研究や報告書等により確認できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(要素技術の統合技術については、公表資料では報告されていないが、別添の弊社内部資料にて検証結果をとりまとめている。)
D-2	各構成要素が機器・システムに統合された状態で機能することを、試験やモデリング・シミュレーションによって検証済みであるか。	試験	☒ はい ☐ いいえ	(応募様式の＜事前準備状況・関連技術開発＞(●ページ)で示す通り、試作部品を用いた実験を既に実施済みであり、機能性は検証されている。)
		モデリング		
		シミュレーション		
D-3	主要な構成要素が統合された機器・システムの限定的なプロトタイプまたは限定的な地域モデルにおいて、構成要素間の適合性を確認できているか。	検証	☒ はい ☐ いいえ	(当技術についてはすでに1/4スケールのプロトタイプを作成しており、応募様式の＜事前準備状況・関連技術開発＞(●ページ)で示す通り適合性は検証されている。)
		限定的なプロトタイプ		
		限定的な地域モデル		
D-4	実際に近い導入環境において、機器・システムの実用型プロトタイプまたは実用型地域モデルにおける構成要素間の適合性を確認できているか。	適合	☐ はい ☒ いいえ	(フルスケールプロトタイプは採択後に作成し、これを用いて適合性の検証を実施する予定である。)
		実際に近い導入環境		
		実用型プロトタイプ		
D-5	実際の導入環境において、機器・システムの実用型プロトタイプまたは実用型地域モデルにおける各構成要素間の適合性を確認できているか。	実用型地域モデル	☐ はい ☒ いいえ	(記入例： 同上。)
		実際の導入環境		

コメント・特記事項

試作部品や1/4スケールプロトタイプを用いて要素技術間の適合性については検証済みであり、採択後は今後の量産化に向けてフルスケールプロトタイプを用いた検証を行っていくが、適合性についてはスケールの違いによる大きな変動は発生しない見込みである。

→「E.検証」のシートへ

— E. 検証 —

開発技術の原理や機能の検証に関わる質問をします。「はい」か「いいえ」いずれかをクリックしてください。
 →答えが曖昧な場合は、「いいえ」をお選びください。
 →「はい」の場合は、根拠に関する説明、或いは提案書に該当する記述のある場合はその箇所をご記入ください。
 必要に応じて別途資料を添付していただいても構いません。
 →必要に応じて、検証に関わる全体的な補足事項及び背景等をページ下部のコメント欄にご記入ください。

番号	質問事項	用語	回答	根拠・説明
E-1	開発課題の核となる技術特性に関するデータ及び基本原理が、既往研究を含む論文研究等により検証されているか。	検証	☒ はい ☐ いいえ	(技術特性については、応募様式の＜論文・特許＞欄にある論文「●●」と「●●」にて発表。)
E-2	各構成要素の性能の実現性に関する分析結果が、既往研究を含む論文、学会、又は技術報告書等において報告されているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(各構成要素の実現性については、公表資料では報告されているが、別添の弊社内部資料に分析結果をとりまとめている。)
E-3	主要な構成要素の性能の予測値を、主要構成要素の試作部品または試行モデルを用いた試験やモデリング・シミュレーションによって算出できているか。	試験 モデリング シミュレーション	☒ はい ☐ いいえ	(試作部品を用いて実験を行い、応募様式の＜事前準備状況・技術開発＞(●ページ)に示すような性能の予測値を算出している。)
E-4	限定的なプロトタイプまたは限定的な地域モデルに統合された各構成要素の性能・機能が実現されているか、試験により確認できているか。	限定的なプロトタイプ 限定的な地域モデル	☒ はい ☐ いいえ	(1/4スケールのプロトタイプを用いた試験は実施しているが、各要素技術の性能の確認には一段の試験を実施する必要がある。)
E-5	実用型プロトタイプまたは実用型地域モデルの性能や機能、CO2削減効果等が実現されているか、実際に近い導入環境において検証されているか。	実用型プロトタイプ 実用型地域モデル 実際に近い導入環境	☐ はい ☒ いいえ	(フルスケールのプロトタイプは未着手であり、採択後に作成し検証作業を行う。)
E-6	実用型プロトタイプまたは実用型地域モデルの性能や機能、CO2削減効果等が実現されているか、実際の導入環境において検証されているか。	実際の導入環境	☐ はい ☒ いいえ	(同上。)

コメント・特記事項

個別の要素技術それぞれの性能等については検証ができているが、機器・システム全体としての性能の確認にはより長いモニタリング期間が必要である。理論的にはスケールアップによる性能差は生じない見込みであるが、このあたりは公民館や中小ビルにおけるフィールド実証を通して検証する。

→「F.安全性」のシートへ

— F. 安全性 —

開発技術の安全性に関わる質問をします。「はい」か「いいえ」いずれかをクリックしてください。
 →答えが曖昧な場合は、「いいえ」をお選びください。
 →「はい」の場合は、根拠に関する説明、或いは提案書に該当する記述のある場合はその箇所をご記入ください。
 必要に応じて別途資料を添付していただいても構いません。
 →必要に応じて、安全性に関わる全体的な補足事項及び背景等をページ下部のコメント欄にご記入ください。

番号	質問事項	用語	回答	根拠・説明
F-1	機器・システム又はモデルが導入・運用された際の、人体・環境等に対する潜在的な危険性を把握できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(開発機器においては制御システムの運用にインターネット回線を利用するため、コンピューターウイルスに感染する等の危険性が増すと考えられる。)
F-2	人体・環境等に係る安全性を確保するための施策を検討しているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(ウイルス感染を防ぐことができるよう、制御システムを外部から変更できないようなシステムを採用することを検討している。)
F-3	人体・環境等に係る安全性を確保するための機器・システムの機能やセーフガードを開発済み、あるいは調達済みであるか。	—	☐ はい ☒ いいえ	(具体的な安全機能やセーフガードの開発には着手していない。)
F-4	人体・環境等に係る安全性を確保するための機能に関する検証を、機器・システムの実用型プロトタイプまたは実用型地域モデルを用いて実施されているか。	実用型プロトタイプ 実用型地域モデル	☐ はい ☒ いいえ	(同上。)

コメント・特記事項

現状ではコンピューターウイルスが主要な安全上の問題であるが、その他の危険性があるかどうかについては、フィールド実証を通して検証を行う予定である。

→「G.製造」のシートへ

— G. 製造 —

開発技術の製造に関わる質問をします。「はい」か「いいえ」いずれかをクリックしてください。
 →答えが曖昧な場合は、「いいえ」をお選びください。
 →「はい」の場合は、根拠に関する説明、或いは提案書に該当する記述のある場合はその箇所をご記入ください。
 必要に応じて別途資料を添付していただいても構いません。
 →必要に応じて、安全性に関わる全体的な補足事項及び背景等をページ下部のコメント欄にご記入ください。

番号	質問事項	用語	回答	根拠・説明
G-1	量産化または水平展開に向けた検討に着手しているか。	量産 水平展開	☒ はい ☐ いいえ	(応募様式の＜事業化・普及見込み＞(●ページ)に示す通り、システムの装置一式の製造コストや製造ラインの設置場所の検討に着手している。)
G-2	機器・システムの量産化に係る製造方法のコンセプトを検討しているか。または、地域モデルの水平展開に係るコンセプトを検討しているか。	地域モデル	☒ はい ☐ いいえ	(制御システムの装置一式の製造方法は検討中であるが、大半の部品は既存の自社製品のものを用用できると考えている。)
G-3	機器・システムの量産化に必要な製造プロセスを検討できているか。または、地域モデルの水平展開のプロセスを検討できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(システムの各構成装置の詳細な製造プロセスについても、概ね既存の自社製品のものを用用できる見込みである。)
G-4	機器・システムの量産化に向けた製造面における主要な技術的課題を把握できているか。または、地域モデルの水平展開に向けた主要な課題を把握できているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(現時点で想定される主要な技術的課題はある程度把握、検討しているが、今後の実証を通して新たな課題が浮上する可能性がある。)
G-5	機器・システムの量産化に向けた、製造面の課題に対する解決策を特定できているか。または、地域モデルの水平展開に向けた課題に対する解決策を特定できているか。	—	☐ はい ☒ いいえ	(現時点では量産化に係る課題の解決策は検討していない。)
G-6	機器・システムの量産化に向けた主要な課題を解決できているか。または、地域モデルの水平展開に向けた主要な課題を解決できているか。	—	☐ はい ☒ いいえ	(同上。)

コメント・特記事項

制御システムの装置一式の大半の部品と製造工程は、既存の自社製品のものを用用できると考えているが、今後のフィールド実証において制御システムを実際のビルに導入する際に新たな課題の有無を確認する。

→「H.コスト・リスク」のシートへ

— H. コスト／リスク —

開発技術のコスト・リスクに関わる質問をします。「はい」か「いいえ」いずれかをクリックしてください。
 →答えが曖昧な場合は、「いいえ」をお選びください。
 →「はい」の場合は、根拠に関する説明、或いは提案書に該当する記述のある場合はその箇所をご記入ください。
 必要に応じて別途資料を添付していただいても構いません。
 →必要に応じて、安全性に関わる全体的な補足事項及び背景等をページ下部のコメント欄にご記入ください。

番号	質問事項	用語	回答	根拠・説明
H-1	製品コストまたは地域モデルの導入コストの目標値を設定しているか。	地域モデル	☒ はい ☐ いいえ	(製品コストについては、応募様式の＜事業化・普及見通し＞に示す通り、1台あたり15万円を目標としている。)
H-2	開発工程に係るリスクを考慮したスケジュールを策定しているか。	—	☒ はい ☐ いいえ	(応募様式の＜技術開発計画・方法＞に示す通り、主なリスクはキックオフと公民館におけるフィールド実証の準備工事であり、これらの工程については余裕をもたせたスケジュールとしている。)
H-3	最終製品のコストまたは最終地域モデルの導入コストを決定する要因を特定できているか。	最終製品 最終地域モデル	☒ はい ☐ いいえ	(主なコストの未確定要因は全体の制御システム用の基盤の調達コストとウィルスに対する防御システムの開発費であり、その他の製品コストの構成要因は概ね確定している。)
H-4	最終製品のコストまたは最終地域モデルの導入コストを試算できているか。	—	☐ はい ☒ いいえ	(最終的な製品のコストについては、今後フルスケールのプロトタイプによる実証後に試算する。)
H-5	最終製品の正確なコストまたは最終地域モデルの正確な導入コストを算出できているか。	—	☐ はい ☒ いいえ	(同上。)

コメント・特記事項

最終的な機器・システム自体の製造コストは概ね算出することができるが、導入にあたってはシステムの設置工事にかかるコストが現時点では不明確である(どのような中小ビルにおいても導入できる共通的な制御システムの開発を目指しているが、工事に関しては建設業者によってコストが大きく変動する可能性があるため)。

→「集計結果」のシートへ

— 集計結果 —

事業者情報		
1	事業実施者名	(環境省地球環境局)
2	代表者氏名(ふりがな)	(環境太郎)
3	代表者役職	(課長補佐)
4	代表者電話番号	(03-5521-8339)
5	代表者メールアドレス	(chikyu-ondanka@env.go.jp)

技術情報		
1	開発課題名(仮称)	(中小ビルのエネルギー使用量制御システム開発)
2	技術分野	(省エネルギー)
3	技術要素名	(制御システム)

コメント	
A 全般	基本原理や機器・システムのコンセプトの明確化、個別要素の分析等は完了しており、社内の開発チームが1/4スケールのプロトタイプを作成済みである。環境省の技術開発事業として採択された後、実用型プロトタイプの実証に取り組む。
B 市場	販売・供給体制については共同実施先と今後協議を行うが、本提案における実施体制には生産を行う●社と販売代理店も担える△社が含まれており、初期普及の段階においてはこの体制をそのまま活用できると考えている。
C 開発	フルスケールのプロトタイプの実証は、環境省の技術開発課題として採択後に着手し、このフルスケールのプロトタイプを用いたフィールド実証は、●●市の協力を得て建設予定の公民館と、共同実施先が建設する●●駅前の中型ビルで実施する。
D 統合	試作部品や1/4スケールのプロトタイプを用いて要素技術間の適合性については検証済みであり、採択後は今後の量産化に向けてフルスケールのプロトタイプを用いた検証を行っていくが、適合性についてはスケールの違いによる大きな変動は発生しない見込みである。
E 検証	個別の要素技術それぞれの性能等については検証ができているが、機器・システム全体としての性能の確認にはより長いモニタリング期間が必要である。理論的にはスケールアップによる性能差は生じない見込みであるが、このあたりは公民館や中小ビルにおけるフィールド実証を通して検証する。
F 安全性	現状ではコンピューターウイルスが主要な安全上の問題であるが、その他の危険性があるかどうかについては、フィールド実証を通して検証を行う予定である。
G 製造	制御システムの装置一式の大半の部品と製造工程は、既存の自社製品のものを用いることができると考えているが、今後のフィールド実証において制御システムを実際のビルに導入する際に新たな課題の有無を確認する。
／ H リコスト	最終的な機器・システム自体の製造コストは概ね算出することができるが、導入にあたってはシステムの設置工事にかかるコストが現時点では不明確である(どのような中小ビルにおいても導入できる共通的な制御システムの開発を目指しているが、工事に関しては建設業者によってコストが大きく変動する可能性があるため)。

分野	番号	回答
A. 全般	A-1	はい
	A-2	はい
	A-3	はい
	A-4	はい
	A-5	いいえ
	A-6	いいえ
B. 市場	B-1	はい
	B-2	はい
	B-3	はい
	B-4	はい
	B-5	いいえ
	B-6	はい
C. 開発	C-1	はい
	C-2	はい
	C-3	はい
	C-4	はい
	C-5	はい
	C-6	いいえ
	C-7	いいえ
	C-8	いいえ
D. 統合	D-1	はい
	D-2	はい
	D-3	はい
	D-4	いいえ
	D-5	いいえ
E. 検証	E-1	はい
	E-2	はい
	E-3	はい
	E-4	はい
	E-5	いいえ
	E-6	いいえ
F. 安全性	F-1	はい
	F-2	はい
	F-3	いいえ
	F-4	いいえ
G. 安全性	G-1	はい
	G-2	はい
	G-3	はい
	G-4	はい
	G-5	いいえ
	G-6	いいえ
H. コスト／リスク	H-1	はい
	H-2	はい
	H-3	はい
	H-4	いいえ
	H-5	いいえ